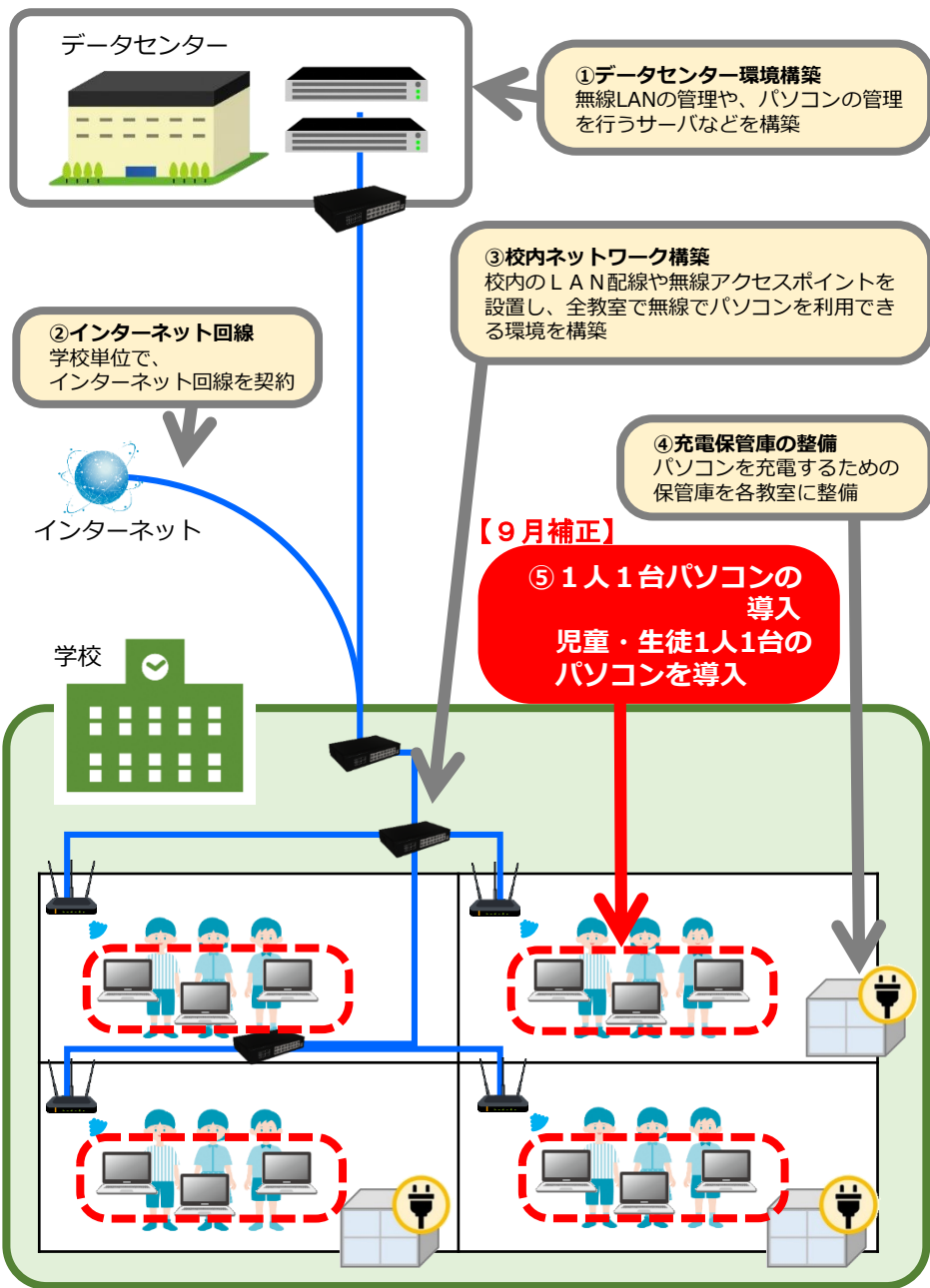


様式1 厚木市報道資料 (制度、その他一般等)		発 信 日	
		令和2年8月21日	
1	件 名	市立小・中学校の学習用端末等の整備について	
2	概 要	<p>令和元年12月、国は、義務教育段階にある児童・生徒1人1台の学習用端末等の整備を目指す「GIGAスクール構想の実現」を示しました。</p> <p>更に令和2年4月に「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」の一環として、情報端末を活用した子どもたちの学習を保障しようと、これまで令和5年度までとじていた学習用端末の整備を前倒し、今年度中の実現を目指すことを示しました。</p> <p>本市では、こうした動きを踏まえ、国の補助金を活用し、市内小・中学校の児童・生徒1人1台の学習用端末等を整備するものです。</p> <p>(1) 整備台数：18,298台（教員用及び予備端末を含む。） (2) 児童・生徒数：16,932人（令和2年5月1日現在） (3) 小学校：23校、中学校13校</p>	
3	目 的	ICTを活用した学習活動を一層推進し、児童・生徒の情報活用能力や学びに向かう主体性並びに思考力、判断力、表現力等の一層の向上を図るとともに、非常時における通信手段や学びを止めないオンライン授業を含め、誰一人取り残すことのない個別に最適化された学びの実現を目指します。	
4	PRしたい内容、セールスポイント	<p>1人1台の学習用端末等の整備で本市が目指す教育</p> <p>(1) 学習意欲アップ：自ら学ぼうとする力を伸ばします。 (2) 表現力アップ：子どもの思考力・表現力の育成をデジタル技術で支えます。 (3) 授業効率アップ：教員の子どもと向き合う時間を増やします。</p>	
5	予 算	<p>予算総額：1,017,369千円（国庫補助金：515,070千円） 18,298台×@55,600円（※授業支援ソフト等を含む。）</p>	
6	添付資料	<p>(1) GIGAスクール構想の実現に向けた環境整備</p> <p>(2) ICT活用推進について</p> <p>（1人1台の学習用端末等の整備）</p>	<p>別紙1</p> <p>別紙2</p>
7	問合せ先	端末整備担当	厚木市 教育総務部 学校施設課長 齋藤 茂 (046) 225-2605
		事業実施担当	厚木市 学校教育部 教育指導課長 八木 義之 (046) 225-2666



これからの厚木の子どもたちに

**学習意欲
アップ**

自ら学ぼうとする力を
伸ばします

**表現力
アップ**

子どもの思考力・表現力の
育成をデジタル技術で支えます

**授業効率
アップ**

教員が子どもと向き合う時間を
増やします

目標：Society5.0の超スマート社会に対応できる「未来を担う人づくり」

- ・ ICT活用による学びの実践を通して授業を変え、**学力向上**を図る。
- ・ 9年間を通して「ICTに任せられることと任せられないこと」の判断ができる子供を育てる。

1 学習形態別の活用と効果

①個別学習

- ・教科書やプリントで伝えづらい動きや色・音等にアクセスさせ、自らが学習に必要なと思う情報を得られるようにする。
- ・自分の理解度に応じた課題を自らが設定し、反復練習を行う。



意欲UP↑

※不登校支援
学校に登校できない事情があり、支援を必要とする児童・生徒への学力保障に活用する。

②一斉学習

- ・短時間で教材の準備ができ、タイムロスがなくなる。
- ・授業内容をプロジェクタに映してわかりやすく説明



授業効率UP↑

※交流支援

姉妹都市やニュージージーランドとの交流において、コミュニケーションツールとしての活用の充実を図る。

③協働学習

児童・生徒の学習用端末上での活動を、プロジェクタで投影し、クラス全体にフィードバック。



表現力UP↑

発展的展開

家庭での使用もできるよう、引き続き通信環境整備を推進する。

2 教職員の研修

- (1) 操作説明・支援ソフト等の研修を全職員に実施する。授業での活用の仕方は、子供と共に考える姿勢を作る。
- (2) ICTを活用した教育は教育研究所に中心的な役割を置く。
 - 研究推進部会を通して、教育実践事例の共有と活用事例集の作成を行う。
- (3) 全ての小・中学校で実践を行うが、先進的な使い方を研究するための研究推進指定校を設置する。